

新規選定① 意匠的に優れた町家が連続して残る^{いもしまち} 鑄物師町

^{たかおかしかなやまち}
高岡市金屋町伝統的建造物群保存地区

所在地 ^{かなやまち} 高岡市金屋町及び^{かなやほんまち} 金屋本町の各一部

面積 約6.4ヘクタール

高岡市は、富山県の北西部に位置する。前田利長は高岡城の外側にあたる^{せんぼがわ} 千保川西岸に、^{にしぶかなや} 砺波郡西部金屋から^{いもじ} 七人の鑄物師を招き、東西50間、南北100間の土地を与えた。この^{はいりょうち} 拝領地を中心として金屋町が成立する。

元和元年（1615）、高岡城は廃城となり、城下町は一時衰退するが、三代利常は高岡を商業の町として再興するため、町政組織の改善や商業振興を図る。こうした中で鑄物師は諸役免除され、生活用品や用具といった鑄物製造を行ってきた。

保存地区は、東西約140メートル、南北約450メートル、面積約6.4ヘクタールで、市街地を流れる千保川西岸、旧拝領地とその周辺の範囲からなる。保存地区の中央を南北に金屋町通りが縦断し、江戸期から昭和初期までに建てられた町家が密度高く残る。

敷地は短冊形で、道路に面して主屋を建て、主屋背面の中庭をはさんで土蔵が建ち、さらにその背後に作業場が置かれる。作業場で火災が発生した際に主屋への延焼を防ぐための工夫とされる。

主屋は真壁造として、切妻造平入で棧瓦葺を基本とする。正面は、一階は出入りに大戸を建て構え、サマノコと呼ばれる格子を設けるものが一般的であり、古いものには^{しとみ} 蔀が残る。二階は袖壁を設け、長押、貫を化粧でみせ、白い漆喰壁とコントラストをなす。

蔵は、土蔵造、二階建を基本として、屋根は切妻造、棧瓦葺で、平入と妻入が混在している。蔵を並べて建てる場合は、その間に土戸と呼ばれる防火のための扉を設け、作業場で火災が発生した際には、戸を閉め、主屋への延焼を防いだとされる。

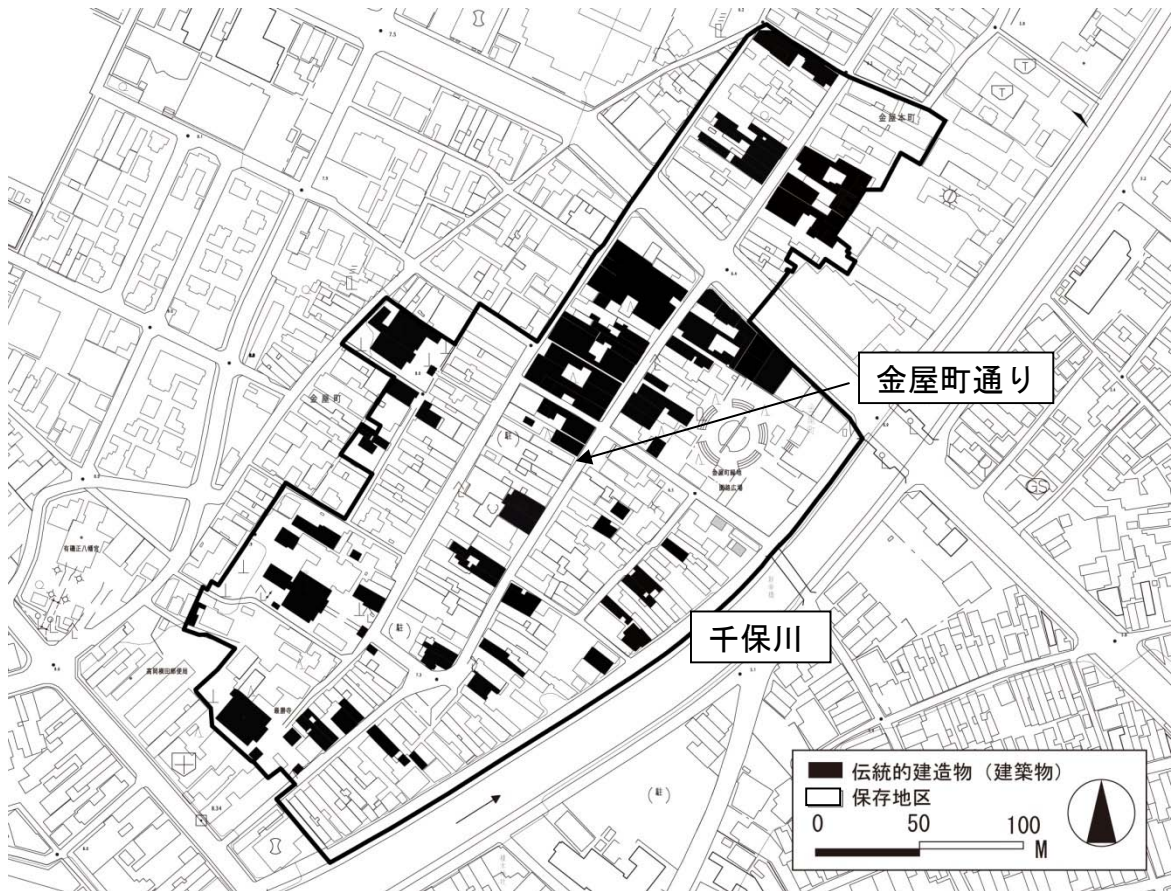
高岡市金屋町伝統的建造物群保存地区は、高岡城下の建設に伴い鑄物師が集住して形成された町並みが今日までよく継承され、意匠的に優れた外観や質の高い造作をもつ町家と作業場や土蔵など鑄物製造に関わる建物がともに良く残り、特色ある歴史的風致を良く伝え、我が国にとって価値が高い。



町並みの俯瞰（右端は千保川）



金屋町通り沿いの町並み



高岡市金屋町伝統的建造物群保存地区の範囲

新規選定② 二つの道沿いに異なる景観をみせる金沢城下最大規模の寺町

かなざわしてらまちだい

金沢市寺町台伝統的建造物群保存地区

所在地 金沢市野町一丁目、野町三丁目、弥生一丁目、寺町三丁目、寺町四丁目
及び寺町五丁目の各一部

面積 約22.0ヘクタール

金沢市は石川県中部に位置し、市街地は小立野台の丘陵先端に築かれた金沢城を中心に広がる。金沢市は、現在の城の位置に一向宗の金沢御堂が築かれたことを起源とし、前田利家の入城後、慶長期に城下町の骨格が定められたが、寛永期の大火を契機に再編された。

城下町の建設に伴い、城下の寺院の結集が進められ、卯辰山麓、小立野台、寺町台の三つの寺町が形成された。このうち寺町台は最多の寺院数を数えた。

寺町台は金沢城の南西、犀川を越えた高台に位置する。寺町台には、前田家墓所のある野田山にむかって直線的に東に延びる旧野田道と、犀川大橋から旧野田道と交差し、南に延びる旧鶴来道が通る。寺町台は、この旧野田道、旧鶴来道の二本の街路を軸として、それぞれの道沿いに寺院が集積するとともに、旧鶴来道沿いには寺社門前地に町家が連なる。これらの地割は17世紀後半には形成された。

保存地区は、東西約1,000メートル、南北約1,220メートル、面積約22.0ヘクタールの範囲で、52寺院が立地する。近世末からの地割をよく残し、寺院周辺の町家とともにまとまりある町並みを形成している。

旧野田道沿いの旧野田寺町は、直線上に寺院の土塀が道沿いに連なり、寺町として特徴的な景観を形成する。一方、旧鶴来道沿いの旧泉寺町は、寺社門前地に形成された町家が通りに面して連なる。このように、二つの異なる景観をみせることが地区の特徴となっている。寺院境内に残る本堂は、切妻造が多く、江戸時代のものが密度高く残る。寺社門前地の町家の主屋は、二階建、真壁造、切妻造平入、棧瓦葺が基本で、平屋建もある。

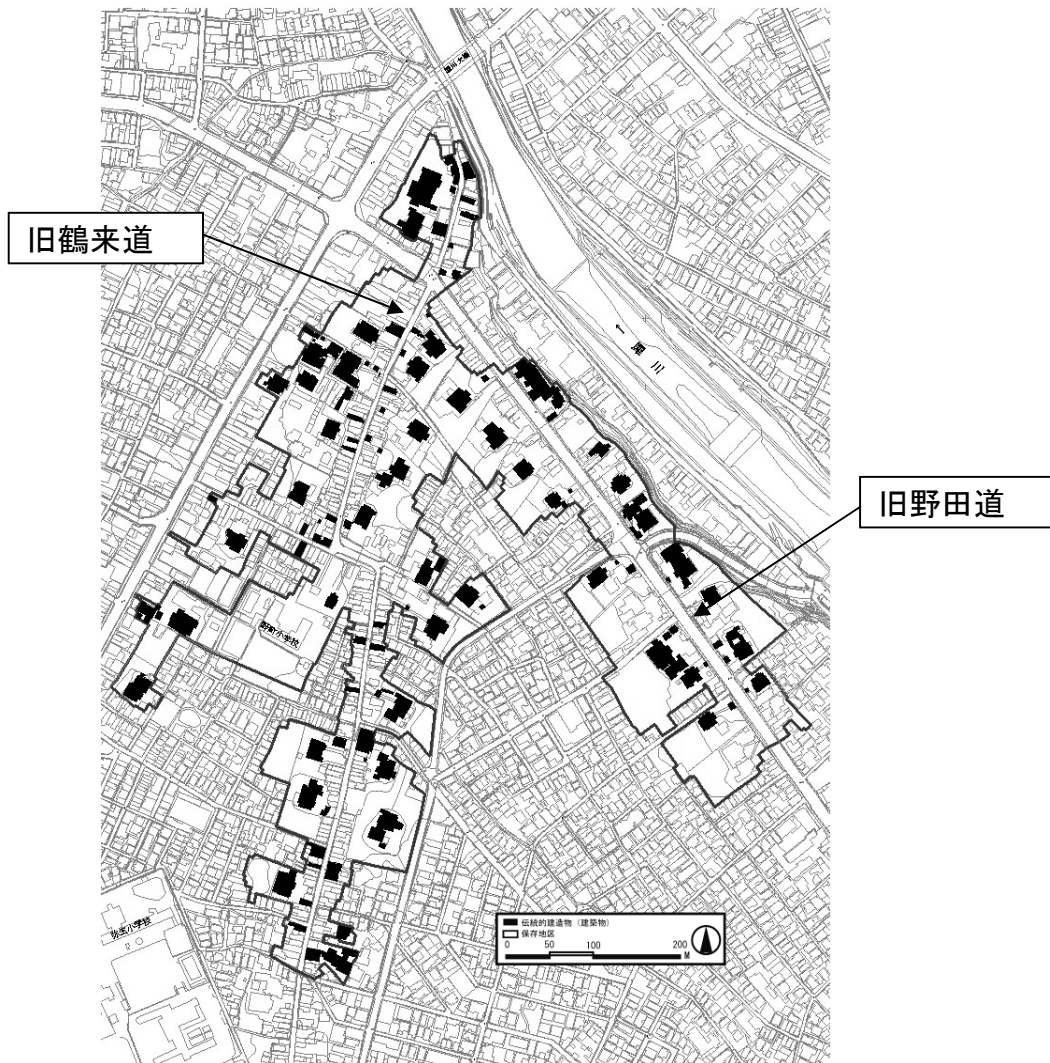
金沢市寺町台伝統的建造物群保存地区は、近世に形成された寺町の地割がよく旧態を保持している。旧野田道、旧鶴来道という二本の街路に沿って寺院が集積し、寺町としての特徴を示すとともに、旧鶴来道沿いには、寺社門前地に形成された町家が連なり、寺町台一帯に形成された歴史的風致を今日に良く伝え、我が国にとって価値が高い。



旧野田道沿いに並ぶ寺院



旧鶴来道沿いの町並み（奥に寺院が見える）



金沢市寺町台伝統的建造物群保存地区の範囲

新規選定③ 統一された様式を持つ町家が密集して残る、四方を山と川に囲まれた城下町

郡上市郡上八幡北町伝統的建造物群保存地区

所在地 郡上市八幡町^{はちまんちょう}大手町^{おおてまち}の全域並びに八幡町^{やなぎまち}柳町^{いち}、八幡町柳町字一ノ平^{ひら}、八幡町^{しよくにんまち}職人町^{かじやまち}、八幡町^{とのまち}鍛冶屋町^{ほんまち}、八幡町^{さくらまち}本町^{おの}、八幡町^{はつね}桜町^{だいかんちょう}字一ノ平^{おの}、八幡町^{はつね}小野^{だいかんちょう}字ヒツツリ^{おの}、八幡町^{はつね}初音^{だいかんちょう}字代官^{おの}町^{はつね}及び八幡町^{はつね}初音^{だいかんちょう}字惣門^{おの}の各一部

面積 約14.1ヘクタール

郡上市は岐阜県の中央部に位置する。郡上市の中心にあたる旧八幡町は、永禄2年（1559）、戦国時代より当地域一円を支配していた郡上東氏^{ぐじょうとうし}を攻めるため、遠藤盛数^{もりかず}が八幡山に陣営を構えたことに始まる。江戸時代後期には、吉田川を挟んで北側は北町、南側は南町と称され、それぞれ名主がおかれた。

北町は、八幡山に築かれた八幡城跡の西に位置し、北、西、南の三方を川に囲まれた旧城下町の一部である。南北行き三筋の通りが配され、東の通りに沿って柳町、中央の通りに沿って殿町、西側の通りに沿っては、北から職人町、鍛冶屋町、本町とされる。

山上には本丸が、山麓の二の丸には居館が置かれた。柳町及び殿町には武家地が配され、職人町、鍛冶屋町、本町及び大手町には町人地が形成された。大正8年、北町一帯が焼失する大火が発生する。復興にあたり、武家地が細分化され町家が建ち、屋根の不燃化が進められた。

郡上市郡上八幡北町伝統的建造物群保存地区は、東西約589メートル、南北約525メートルで旧武家地、旧町人地並びに八幡城跡から構成される面積約14.1ヘクタールの範囲である。主屋は総二階建てで、切妻造平入、真壁造で木部を弁柄塗とし、壁を漆喰塗とするものが多い。袖壁を設けるのが一般的で、屋根は鉄板葺又は棧瓦葺を基本とする。敷地の傾斜を利用して、主屋一階の床下にシタヤと呼ばれる居室やムロと呼ばれる貯蔵庫を設けるものもある。通りに沿ってそれぞれ水路が引かれ、現在でも生活用水として利用されている。

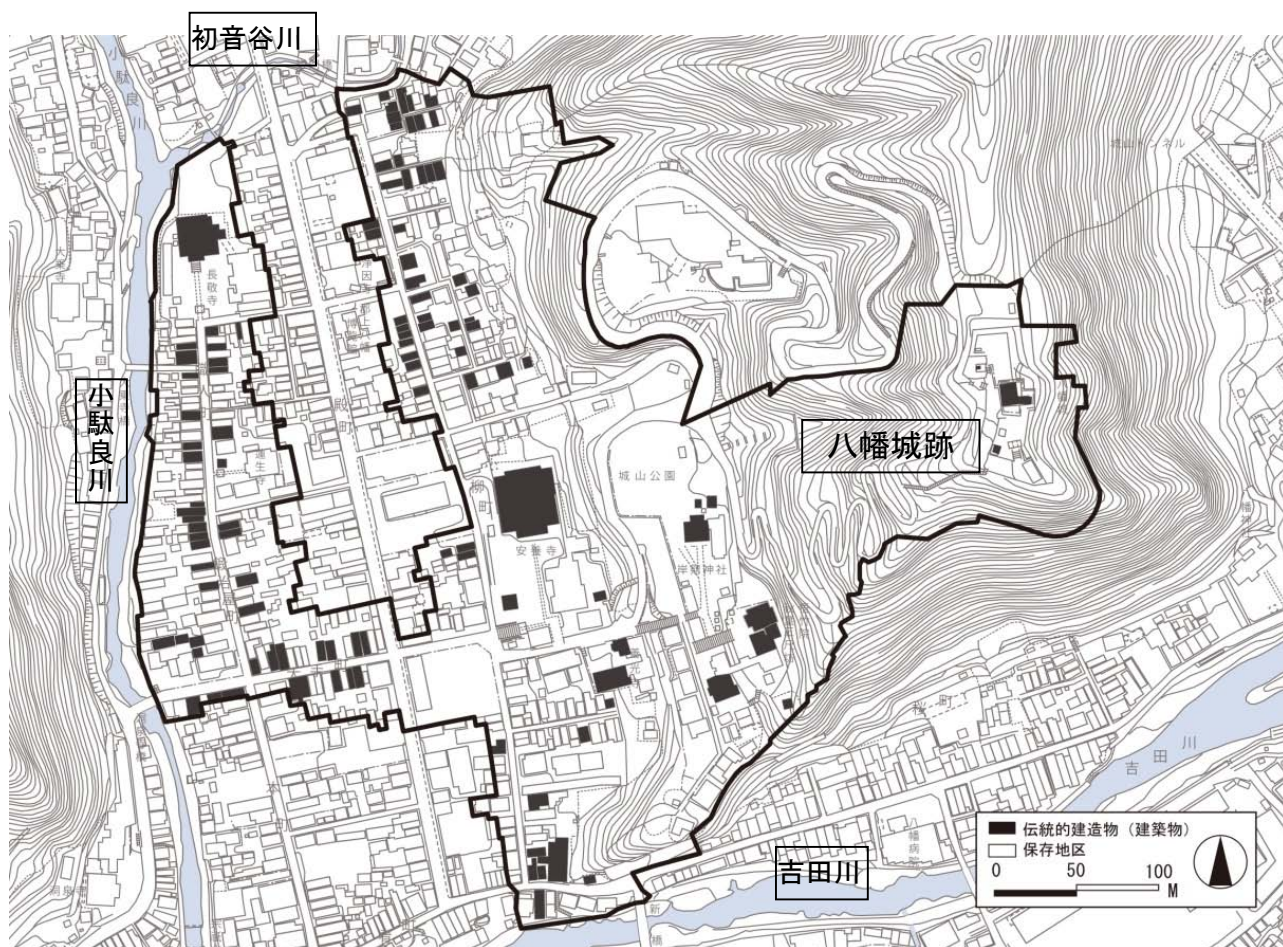
郡上市郡上八幡北町伝統的建造物群保存地区は、四方を山と川に囲まれた自然地形をいかした城下町の一部で、統一された様式を持つ町家が密度高く建ち並ぶとともに、湧水をいかした水利施設とが一体となって、城下町としての歴史的風致を今日に良く伝え、我が国にとって価値が高い。



職人町、鍛冶屋町の町並み（旧町人地）



柳町の町並み（旧武家地）



郡上市郡上八幡北町伝統的建造物群保存地区の範囲

新規選定④ 瓦葺民家と茅葺民家を良く残す旧西京街道沿いの宿場町と農村集落

篠山市福住伝統的建造物群保存地区

所在地 篠山市福住、川原、安口及び西野々の各一部

面積 約25.2ヘクタール

篠山市は、兵庫県東部の山間部に位置する。当地方は、戦国期には八上城^{やかみじょう}に居を構えた波多野氏領であったが、慶長14年(1609)に領主となった松平康重^{やすしげ}が八上城を廃し、篠山に城を築いた。城下町は、現在の市域のほぼ中央にある篠山盆地に位置し、一部が平成16年に重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。

保存地区は、篠山城下の東、篠山から京都に向かう旧西京街道^{さいきょうかいどう}沿いに位置し、福住、川原、安口、西野々の四集落からなる。このうち福住は、江戸時代に宿場町として整備された。一方、川原、安口、西野々は宿場町の外で、宿場の機能を補完する農村集落であったと考えられる。

保存地区は、東西約3,260メートル、南北約460メートル、面積約25.2ヘクタールである。東西に流れる^{もみいがわ}^{もみい}川南岸に旧西京街道が通り、街道に沿って西から福住、川原、安口、西野々の各集落が形成される。集落は、^{かんがい}谷付近に形成され、周辺に田園が展開し、谷奥の溜池から^{かんがい}川に水路を設けて灌漑施設としている。

福住では、宿場町のほぼ中央に本陣、西端に脇本陣が配され、旧西京街道に面して町並みが形成される。敷地は街道に沿って短冊形に配される。川原、安口、西野々でも、街道に沿って敷地が並ぶが、福住に比べて、奥行きが浅い。宿場町では街道に面して主屋が建てられるが、宿場町以外では、街道と主屋の間に庭を設けるものがある。

主屋は、つし二階建、瓦葺、若しくは平屋建、茅葺(現在は鉄板葺)とする。福住の旧西京街道沿いの宿場町では瓦葺とするものが主で、他では瓦葺又は茅葺の建物が混在し、特徴ある町並みを形成している。敷地内には主屋の他に、離れ、納屋、土蔵などが建つ。

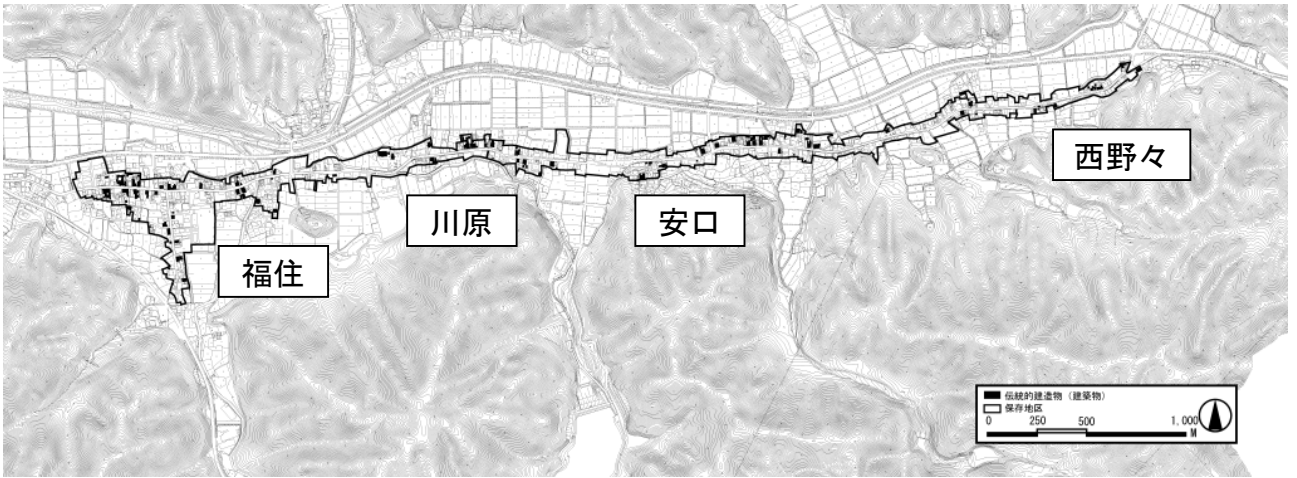
篠山市福住伝統的建造物群保存地区は宿場町として発展した町並みと、街道沿いに形成された特徴ある農村に、妻入を主体としたつし二階建瓦葺や平屋建茅葺の伝統的建造物が、周囲の田園及び特徴ある灌漑施設等の環境と一体となって、宿場町とそれに隣接する農村集落の歴史的風致を良く伝え、我が国にとって価値が高い。



福住の町並み



安口の町並み



篠山市福住伝統的建造物群保存地区の範囲